

私たちが目指すもの

私たちは、北アルプスの自然の恵みと、その恩恵を受けた松本と高山に根づくこの地域を、一つの観光圏として捉えたときに、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光地経営によって、地域の価値が向上し、持続的な発展につながるものと考えます。観光産業をエンジンとして、この地域社会の持続性を高め、50年、100年先の未来のためのエコシステムの形成（＝高付加価値な観光地域づくり）を目指します。



松本市 中町通

Topics 1

松本研究会の今年度の取組

2024年度の松本産業研究会の取り組みは、観光を軸に地域産業の価値向上を図り、持続可能な地域社会の実現を目指す重要な一歩となりました。主な取り組みとして、①松本市のコアバリューの要素「水と山」「文化と自然が融合する地」をテーマに専門家を招聘した勉強会やシンポジウムを開催 ②南米の高付加価値宿泊施設AWASI運営者の招聘と松本市内空きビルなど遊休不動産の活用について協議 ③松本ならではの体験価値を提供する高付加価値ツアー造成およびランドオペレーター機能としての手配業務 ④海外の高付加価値層向けエージェントmichi & co社との協働によるインフルエンサー招聘 ⑤観光収益を地域内に循環させる「地域環流スキーム」の検討 ⑥地域独自の価値を体感できるローカルフード開発 等が挙げられます。



3種のうちの1つ、
“AWAKENING”
苦味による爽快感。身体もココロも覚醒。
キハダ、ヒメジソ、カキドオシ、エゴマ、リンドウ使用。



松本研究会ローカルフード開発 試飲会の様子



新聞やテレビ等のメディアにも取り上げられた

特に、⑥地域独自の価値を体感できるローカルフード開発では、松本高山のコアバリューを体感できるコンテンツとして、また地域の食文化や観光価値の向上を目指して「信州ボタニカルドリンク」を開発しました。試作は3種類。「香りを飲む」をコンセプトに、健康的で特徴的な味わいを提供するものに仕上がりました。

開発にあたっては、信州大学や地元飲食店、ハーブ農家、林業事業者等へのヒアリングを実施し、食材選定や製造方法を検討しました。試作品は関係者向けの試飲会で評価され、味やコンセプトのブラッシュアップが行われました。試飲会では、炙った樹木を加えるなど、飲む体験そのものを楽しめる工夫が評価され、地元飲食店やホテルでの提供に向けた意見が集まりました。

試飲会での評価からも、高付加価値層の嗜好に応える独自性の高いストーリー性のあるプレゼンテーションやペアリング提案が興味を引くポイントとなることが明らかになりました。次年度は、当地の文化歴史に共感いただける高付加価値層向けの体験型プログラムや、ホテル・レストランでの特別提供メニューとしての導入を目指し、地域のブランド価値向上に貢献していきます。

松本エリアにおける持続可能な観光地づくり産業研究会顧問
和田 浩一

2023年まで観光庁長官を務めていた和田と申します。縁あって研究会の顧問に声をかけて頂きました。山好きな私にとって松本は憧れの地でもあり、松本の活性化のお手伝いができることを大変嬉しく思っています。

さて、多くの地方都市と同様、この松本も人口減少等が進み、地域の活力をどう維持するかが大きな課題となっています。そのため、人的交流を通じた消費によつてカバーしていくことが有効ではないかと考えています。

松本の魅力とは何か、それに共感してもらえらる人に訪れてもらい、より消費してもらうにはどうしたらいいか、その消費による受益を松本の活力維持のためにどう活用するのか。

そして、何よりも松本の魅力とは、地域で様々な営みを行う皆さんの暮らしそのものであり、それをいかに引き出していくかが重要です。そして、この先も皆さんの暮らしを持続可能にしていくことが松本の魅力の維持につながると思います。

大変難題ではありますが、これまで役所で得た知見や人的ネットワークを総動員して、1つでも多くの具体策を練り、大好きな松本のためにお役に立てるよう努力したいと思えます、これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

この人に聞く！

Topics 2

観光庁 高付加価値モデル事業 年次報告会に参加してきました！

○最終報告会では、全14のモデル地域が令和6年度の取組と成果、来年度に実施したい事業の概要等の報告が行われました。本会への参加を通じて、当エリアがコアバリューの具体化などの作業で他エリアよりも進んでいると感じた一方で、もっと注力しなければいけない課題も多くあると感じました。来年度は地域の関係者とさらなる強固な連携のもと、山積する課題解決に向けて事業に取り組んでいきたいと考えています（発表者：名古屋鉄道 若江翔平より）。



松本・高山エリアの報告発表時の様子

○モデル地域の多くが、昨年度はコアバリューやマスタープラン等に関連した成果報告であったが、今年度はILTM等の商談会や海外エージェントの招聘（ファムツアー）、販売ツール制作やプロモーション等の成果報告が共通していた印象であった。一方でより詳細を紐解くと、沖縄・奄美では新規メニュー開発の上、ユニークメニューでの食事会を開催したり、せとうちエリアでは旅行業の取得とDMCの内製化、紀伊半島エリアでは数多くの海外メディアへの掲載実績を残し、那須周辺エリアではヤド開発を含めたまちづくり計画の策定など、独自の成果を出している。これらの地域に共通しているのはしっかりと実施体制が出来ていることのように見受けられる。次年度の松本・高山エリアにおいても、このエリアならではの官民連携のもとに、より機動的に進める体制強化の上、取り組みを後押ししていきたい。（参加者：観光庁 飯島一隆より）。

Topics 3

本事業を中心に、観光が地域にどう裨益するかを検証する指標について、 昨年度の調査をさらに深掘しました。

マスタープランでは「観光産業の未来」と「地域と住民の未来」の活性化と好循環の創出を掲げ、①観光産業の指標と②地域の指標を定めることとしています。R6年度はR5年度の調査に加えて、①に関連して宿泊施設における訪日外国人の客単価等の実態調査 ②に関連して観光振興による地域経済の波及効果の算出等を行いました。ここでは前者①について実態調査の結果概要を報告します。

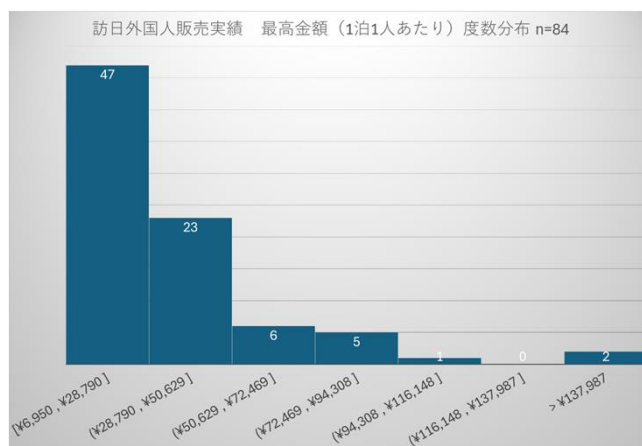
●調査方法：地域の宿泊事業者アンケートによる調査

●調査回答：宿泊施設104件からの回答のうち、調査対象期間（2024年1-11月）内に訪日外国人の販売実績が10人以上の施設84件の回答をもとに作成。

●結果概要：

- 1) 訪日外国人に実際に販売した宿泊施設の客単価
・最高金額は右記グラフの通り、
分布の最多は47施設の6,950 - 28,790円の幅、
最大値は137,987円以上の幅となった。
・平均金額は同様に（グラフはスペース上割愛）、
分布の最多は37施設の5,222 - 14,219円の幅となった。
（すべての平均値は18,673円、中央値は15,700円）
- 2) 訪日外国人の宿泊者数の最大値：79,000人
- 3) 訪日外国人の平均宿泊日数：
・分布幅は1～4日となり、すべての平均値は2日となった。

●今後にもむけて：本調査結果をもとにマスタープランの指標として設定すべく反映方を検討し、継続的に調査を行っていく予定。



グラフ 訪日外国人販売実績 最高金額（1泊1人あたり）度数分布
※度数はスタージェスの公式により7つの階級に分けて作成

Topics 4

松本・高山 高付加価値な観光地づくり推進協議会 2025年度 総会 を開催します！

開催日：2025年4月23日 15:00～18:30（受付開始14:30）
場所：ひだホテルプラザ
内容：第1部 総会、第2部 講演会、第3部 懇親会（立食形式）
参加費：お1人様 8,000円 程度 ※第3部に出席される方のみ
申込方法：4月11日（金）17:00までに以下のURLもしくはQRコードより
<https://forms.gle/5ytzuPTS6mAeZTrT7>

